

旅路を見守るサングワ



沖縄本島と伊江島を結ぶフェリーが発着する港であり、那覇港と鹿児島港を結ぶ航路の寄港地のひとつでもある本部港。

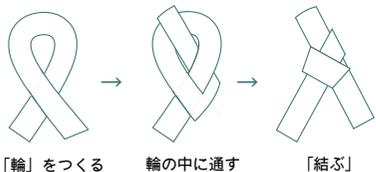
地元の人々をはじめ、修学旅行生や観光客が胸を膨らませて出発し、思い出を乗せて戻ってくる。そんな人々の思いを迎え入れ送り出す、憩いの場。

この場所に訪れる人々を包み込み、やさらかな旅路を見守る建築を提案します。

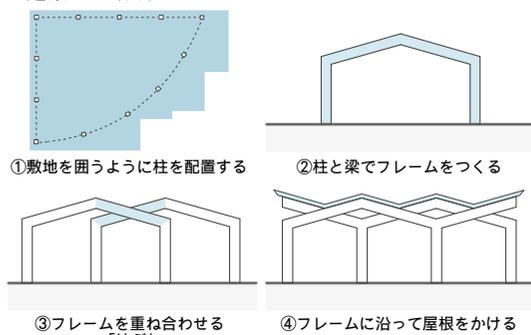
*サングワ

「サングワ」とは、昔から伝わる沖縄のお守りです。スキの葉などで輪を作り、結ぶことで魔除けやお守りとしての効果があると言われています。子どもが出掛けの時に持たせたり、食べ物が痛まないように重箱に添えたり、家を守るために玄関先に飾ったりする温かみのあるものです。そんな人々や物、場所を側で見守る「サングワ」のような建築をつくりたいと考えました。

*サングワのつくり方



*建築のつくり方



サングワフレームで構成されたこの空間は、訪れた人に島々のつながりを連想させる。人々の思いを包み込み、見守る建築となる。

サングワフレームに沿って屋根をかけることで空間に抜けができ、フレームの間隙から風や視線が通り抜けれます。隣接する旅客待合所や周辺の海や山との調和を目指しました。



南東側デッキ広場から見る

分節された屋根がブリーツ状に広がり訪れた人々を包み込みます。



北西側俯瞰フェリーの上から見る

